



ノルウェー・トリック・アラカルト&STB



STB前団長 テリエ・ベック

2007年2月下旬から開かれた2007 FIS ノルディックスキー世界選手権札幌大会で、ユニークな応援を繰り広げたノルウェーの応援団の代表(当時)、テリエ・ベックさん(52)が再来日。北方圏講座で講演した。

温かい歓迎に感謝

ただいまご紹介いただきましたテリエ・ベックでございます。

2月から3月にかけて札幌を訪ねさせていただきました。総勢35人で来ましたが、その全員から皆様方にくれぐれもよろしくと言付かつてきました。

2月、私たちが新千歳空港に到着

した時、空港には15人の方が出迎えて来て下さっていました。日本の皆さんが大変礼儀正しいとは聞いていましたが、あのときの出迎えには、私たちが、本当に感動いたしました。

空港から白旗山に向かいました。

そこには清田区役所の方たちと、清田区の有志の方たちが待っていてくれました。長い旅をして到着し、テントの設営を終え、全ての設備を終えた私たちは、地元の和太鼓ですばらしい歓迎を受けて、メンバーの中には泣いていた人もいました。

私たちの滞在中、人々が私たちを見てにこやかに笑いかけてくれたりしました。私たちの格好は奇異とも思えるような奇抜なものですし、お

かしなことをしているように見えたと思うのですが、そういう私たちを広い心で受け入れてくださったこのことを大変ありがたく、感動を覚えました。

札幌の有志の方たちのグループ、

カモメのメンバーは、メールの中で、STBの皆さんは周りの人々を幸せにするのですねということを書いてきました。それを読んで私は感動して涙ぐんでしまいました。しかし、そうではありません。そういう周りの皆様方から私たちが幸せを返してもらっているのです、ということを申し上げたいと思えました。

そして私は、白旗山に、清田に、札幌に、北海道に、そして日本に心



2007年2月札幌

からのお礼を申し上げたいと思います。皆様本当にありがとうございます。私、そしてSTBはいつまでも皆様のことを忘れません。

ノルウェーの概略

それでは、ノルウェーの概略、ノルウェーの文化をご紹介します、それからSTB、私たちの団体についても触れてみたいと思います。



札幌にこの冬に参りましたときに、私たちがああいう格好でああいうことをしておりますので大変奇異に見えたかもしれません。私たちに對して、お国で仕事をされてないのですか、というようなことを質問した方もいらしたのですが、私たち全員ちゃんと仕事についています。では一般的にノルウェー人はどのような条件で仕事をしているのかですが、まず、1日の就労時間が7・5時間、毎年5週間の有給がとれることが法律で保障されています。職業による社会的なステータスの差というものは、以前は多少ありましたけれども、近年はなくなってきました。それから、平均所得、これは税引き前ですけれども、500万円で

す。税率が高く、所得に応じて、35〜60%までとなっております。転職は、これは一般的です。

税金が高いという話をしましたが、医療や教育、それから生活の重要な部分は全部無料です。関心がありだと思いますが、税金が高い分、社会保障、それから年金は十分に保障されています。

家や暮らし方についてお話ししますと、ノルウェー人は、例えば、レストランなどの食事にお金を使うよりは家を買う、家のインテリア、家具などを充実させるということにお金をかけます。ノルウェーの家は木造がほとんどです。芝生のある広い庭を作ったり、家にもたくさんお金をかけます。

次に、レクリエーションについてですが、ノルウェーは週37・5時間労働です。たっぷり時間がありますのでレクリエーションを堪能することができるわけです。

まずウォーキング、これはトレーニングのためにする人もいますが、散策をする、あるいは気持ちよく歩くということも私たちの生活の一部になっています。次にスキーですけれども、これは家族でクロスカントリースキーなどをします。コースの

途中にコーヒーを飲めるようなスタンドがあってコーヒーを飲んで温まってまたコースで走るというように、非常に手軽にできるスポーツです。

ノルウェーの国民性と言っているかも知れません。大変スポーツ好きです。サッカー、スキー、スケートなど。実は私、今回こちらにいます間に北海道日本ハムファイターズのファンになりました。野球はありませんが、いろいろな種類の球技が非常に盛んです。実は、スポーツ、スポーツと言いますけれども、これを口実にして遊んでいるわけです。

スポーツを口実にして遊んでいるのがSTBというふうにも言えるかもしれません。冬のノルディック選権のときのことを思い浮かべていただければご納得いただけるかもしれません。

STBを紹介

STBについて簡単に説明させていただきます。私たちが住んでいるサルトネスという地域の15名がグループを作って何かやろう、ということとで92年に始めましたので15年の歴史があります。目的は、リラクセスること、一緒に楽しむことなのです。

私たちは全員妻も子供もいます。家事も育児もしていました。子供たちがまだ小さくて手がかかっていたころで、自分たち男だけで月に1回集まって何か好きなことをするというのを理解してもらって、発足した会なのです。始めた時、若い人で27歳、一番年上で40歳でした。

私たちのもう一つ目的は、ノルウェーに古くから伝わる文化を継承し実践していくということがあります。

今画面に映っているのは、靴の縫い目で、STBと読めます。サルトネス・テューン・ベクソムの略でBは縫い目という意味です。手縫いの靴で、これは50年前に作られたものなのです。職人仕事が大切にされている国なので、今でもメンバー全員、この靴を履いています。それからテューンというのは、これは鍛錬という意味です。

サルトネスは一体どんなところかといいますと、非常に自然が豊かで、広々としていて家がぼつんぼつんとあるようなところです。日本ですと大変な高級地かもしれませんが。住宅や、場合によっては夏用のコートジとして使うサマーハウスがあるだけです。小さな食料品店のよう



な、雑貨店のようなところが1カ所だけあります。人口は2千人くらいです。オスロから75キ南に行つたところで、東側には、スウェーデンとの国境があります。

STB、「サルトネス、鍛錬、靴の縫い目」なんて、意味不明な名前前で、ノルウェー国内でもほとんどの人が一体何の団体か知りません。

STBのユニホームは特にユニークというものではないかもしれませんが、大切にしているのはこの手縫いの靴とかなりクラシックな感じがする紺色の帽子です。それにスポーツにかかせないゼッケンをつけるというこの三つは必ず守っています。いろいろなイベントとかミーティング、集会、活動を行うときにはこの三つを必ずつけることになっています。

この帽子は、50年代、60年代にジャンパーが実際に使っていたものです。それからブーツ、これも50年前あたりまで作られていたものなのですけれども、今でもちゃんと修理をして、手入れをして履いています。クロカンで使われていたものです。残念ながらもう製造中止になってしまいましたので、大事、に大事に履いています。

グループの開設当時どのような

とをしていたかというところ、最初の3、4年はフィヨルドで遊ぶことが多かったです。ジブシークインという黒の帆船をメンバーの兄弟から借りて、15人くらいのメンバーで夏に海で遊んでいました。

そのほかに、現在STB会長のクヌートが景色のいい所に農場を持っていきますので、そこにK点4ピクのスキージャンプ台を作ってジャンプ大会を始めました。これは今も続いていて、2月に白旗山でもこのK点4ピクジャンプの大会をしました。

さらに、住んでいる所が平坦な土地なのでたまには山に行こうと。非常に古いタイプのスキーを持って海拔1、222ピクの山に登って滑り降りてきます。何が古いかというと、もともとスキーが始まったのは1890〜1910年ころですから、その当時のスキーを古いスキーといえます。1965年以降のスキーは新しいスキーです。

両方とも木製で、私も10代〜20代初めには、この両方のスキーを試してながらスキーをしていました。そのスキーの板でジャンプも、クロカンも、ダウンヒルもやりと非常に重宝していたわけです。現在私は52歳で、もうこういった古い板は見つか

りませんが、古くからあるものをちゃんととってありますので、かついで山に登って滑ってきます。

STBは、事務所を持っていて月例会をしています。全員が合鍵を持っていきます。具体的には、例えば外部から誰かをお呼びして講演していただく、きょうのような感じですね。

ある時には、クラシックカーを持っているノルウェー人がそれを船でアメリカまで運んで、ルート66を走るクラシックカーレースに出た時の体験談を聞きました。また、アクアビット（編注：ジャガイモを原料とする、度の強い北欧独特の蒸留酒、ワイン醸造の勉強会や、いろいろな種類の葉巻を試したこともある）日本に来る前、日本人の男性から、北海道出身と聞きました。日本文化について教えていただいたこともありました。

このようにいろいろな活動をします。が、要はみんな楽しんで、私たち男性だけで楽しむということ工夫しておきます。

97年に活動広がる

97年になりました活動が一挙に大きく広がりました。これはノルディ

ック世界選手権を応援に行こうということ活動を取り入れたからです。97年はトロンハイムで開かれました。そのときに、STBだけではなくて、個々のSTBのメンバーがそれぞれの友人に声をかけて人数が増えました。そうしたSTBのメンバーではない人たちは、ハンダアラウンズと呼んでいます。楽しくふらふら遊んでいる人というような意味ですが、これは親しみを込めた呼び名です。STBメンバーには手縫いの靴という非常に立派なロゴがありますが、この友人たちにはないので、自分たちにも何か作ってくれということになりました。手縫いの靴とはいきませんので普通の運動靴で辛抱してもらって、このブルーの円の中に靴があるマークをロゴとして使うようになりました。

そして、99年、オーストリア・ラムサウでの選手権には総勢30人出かけました。その次の2001年のフィンランド・ラハティでの選手権では、ラハティ市が私たちを非常に好意的に受けとめてくれて、大会後にテント跡地、宿営地跡地に記念植樹をしてくれました。ノルウェーの独立記念日にはラハティ市が記念の石碑を設置して、盛大に式典をして

くれたのです。この石碑には「2001年STBはここで眠った」と書かれています。

2003年、イタリアのヴァル・ディ・フィエンメでの選手権の時も地元の組織委員会の事務総長、何度も私たちのテントを訪れて一緒に楽しんでくれました。

2005年のドイツ・オーベルスドルフでの選手権大会ではもうベクソムという私たちの名前はブランドとして高く受け入れられるようになっていました。

そして、今年総勢35人で札幌をお訪ねしたわけです。これまでにない最高のSTBキャンプとなりました。14人がSTB、21人がハンガアラウンズの友人たちです。

お話ししたいことは山ほどあるので



すが、時間の関係もあります。一言だけ申し上げます。実は、ご承知と申しますけれども、札幌でクロススカントリーの施設あるいは、その関連の施設を設置するに当たって、何か所かの木々を伐採したそうですが、緑を復元するというので、10月8日に白旗山で記念植樹を行うそうです。清田区の方から私にも1本植えていかないかと声をかけていただいたのですが、残念ながら明日帰国するので、お引き受けできず大変残念です。そうしたら中野区長さんが、では私が代わりにやってあげましょうということ、私の分を植樹してくださいということになりました。

あらゆる国の選手を応援

私たちが、このSTBを、どういう背景、どういう目的でつくったかを簡単にお話ししたいと思います。まず、STBの仲間たちの中で友好を深めるといことがあります。それから同時に、妻から、家から、家族から離れるということも目的にございます。いつとき、月に1回1日許してもらっているわけです。

それから二つ目として、先ほど来話してきた、ハンガアラウンズという友人たち、彼らともこういった活

動を通じて友情を深めていきたいと考えています。

三つ目は、これは、特に選手権開催地をまわって、各国の選手を応援するなかで、特に札幌ではそうだったように、地元の皆さん方と仲良くすることがあげられます

そしてまた、ノルウェーを知っていただくこともあります。ノルウェーに関心を持っていただくというきっかけにもなったのではないかと自負していたところ、今回、札幌に来る前に東京で駐日ノルウェー大使に会った時、大使がSTBに大変感謝をしているということをおっしゃっていました。ノルウェーのもう一人の大使はベックさんを初めとするSTBの方々だというふうに言ってくださいまして、友好の輪がどんどん広がっていくことは大変うれしいことだと思えました。

申しましたように開催地の人々との交流、これの最たる例、最高の例は札幌であったというふうに私は胸を張って申し上げます。

最後に、皆様、是非ノルウェーに来て下さい。私どもできるだけのお世話をし、お返しをさせていただきたいと思っております。おいでをお待ちしています。

DISPLAY

展示・装飾・サイン企画・製作

株式会社 **マルヒラ**

〒060-0823 札幌市中央区北3条西20丁目 北3条MMビル1F ☎(011)612-5010